



# この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2021年5月30日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

## 賢い 選択

### 「最良のがん治療」って何？

6月2日(水)＝くらしナビ面



インターネットの普及で医療情報が入手しやすくなりましたが、何を信じていいか分かりづらくなっています。確かな医療を賢く選ぶすべを紹介する連載「賢い選択」。今回は「最良のがん治療」をテーマに取り上げ

ます。がんは2人に1人がなる病気です。患者の家族も含めれば、日本人の大半が治療に関係するため、「国民病」と言っても過言ではありません。誰もが望む最良のがん治療はどのように決められ、何

をするのでしょうか。対極をなす「トンデモ医療」を見分けるにはどうしたらいいでしょうか。読者の皆さんと考えたいと思います。

## 特集 ワイド

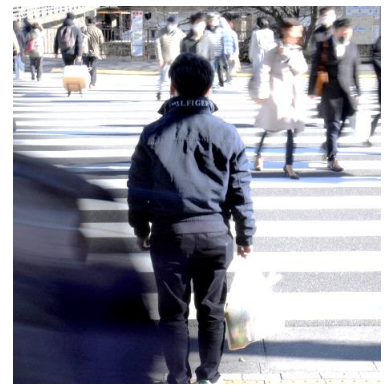
### 東ちづるさんが語る 「多様性のある社会」とは

6月1日(火)＝夕刊特集ワイド



新型コロナウイルスの感染拡大で、東京オリンピック・パラリンピック開催について今も賛否が分かれています。そのオリパラ公式文化プログラムの一つで総指揮を務めるのが、俳優の東ちづるさん＝写真＝です。実は東さ

ん、早期の胃がんから最近復帰したばかりなのですが、ご自身のがんよりもコロナが浮き彫りにした社会の分断にショックを受けたそうです。多様性を育む社会を目指して活動を続ける東さんに、その思いをうかがいました。



## 論点 ヤングケアラーをどう支えるか

通学や仕事をしながら家族を介護する子ども「ヤングケアラー」を巡り、厚生労働省と文部科学省の共同プロジェクトチームは支援策をまとめた報告書を公表し、ようやく救済に向けた一歩を踏み出しました。政府調査で公立中学2年生の17人に1人、全日制高校2年生の24人に1人が、家族の

世話や介護を担うヤングケアラーであることが分かりました。調査結果を受けて政府は5月、支援策を発表しました。支援策を有効に機能させ、子どもへのケア負担を減らすにはどうすればいいのか。ケア経験者や研究者、支援策の作成に関わった厚労省の担当者に聞きました。

6月2日(水)＝オピニオン面

## ストーリー

### 「満蒙開拓団」語り継ぐ孫

6月6日(日)＝1面、ストーリー一面



日本人の子として中国で生まれ、16歳で来日した女性(55)＝写真＝が、中国残留者となった祖母の過酷な体験の語り部をしています。戦争中に「満蒙開拓団」として海を渡った祖母は戦

後30年を経てようやく帰国を果たしましたが、当時幼かった孫の女性は事情が飲み込めませんでした。語り部活動を通じて祖母の思いに触れ、成長していく女性と周囲の人々を追いました。

## 新毎日



(小野田香織)

不安定なお天気が続きますが、おちおち風邪も引いていられます。昨日の新聞のニューサイトの中、医療プレミアアをご存じですか？ 日々の健康づくりや新型コロナウイルスの情報など、役立つ記事がいっぱいあります。記事ですが、毎日新聞料をご購読中の方は、新聞をお購読中の方は、自宅配読者無料プランに登録すれば無料で読めます。まだの方登録の機会にご登録ください！



※都合によっては掲載日や内容を変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。